

いずみニュースレター

令和4年1月発行 第21号



SDGs と我が家の取り組み

社会福祉法人いずみ監事 北角 鉄男

明けましておめでとうございます。
世界からコロナの脅威がなくなる年になりますよう祈ります。

最近SDGs（エスディージーズ）という言葉を見聞きします。
詳しくは知らなかったので、ちょっと調べてみました。

SDGsとは「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」の略称で、2015年9月の国連サミットで採択され、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

環境への取り組みが主なものだと思っていましたが、人権、経済、社会、地球環境と様々な分野にまたがり、下記の17の課題に分類されています。

1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロに
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに。そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤を作ろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任、つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナリーシップで目標を達成しよう



国や自治体、企業、団体が率先して担っているイメージですが、個人の取り組みが欠かせません。具体的には、

- ・節電、節水を心がける
- ・マイバックやマイボトルを活用する
- ・フードロスを減らす
- ・再利用、リサイクルを積極的に行う
- ・できるだけ公共交通機関を利用する
- ・家事を平等に分担する
- ・災害に対する備えをしておく
- ・認証マーク入りの商品を購入する
- ・フェアトレード商品を購入する
- ・持続可能なエネルギーを使う など



もちろんずっとそうしておられる方が多いと思います。
SDGsに関心を持って続けることが大切です。

我が家はどうかといいますと、数年前から新聞を電子版にしました。

光熱費は前年より減らすように節約する(心がけ)。

食品トレーを回収しているスーパーに持って行くようになったら、ごみのカサがだいぶ減りました。

迷ったら買わない、飲み過ぎない、食い意地を張らない(心がけ)。

電子マネーで決済する(ちょっとでも得すると楽しくなってきますね)。

ここ2年はコロナ禍で家ですごす時間が長くなりました。家族とも適度な距離を取り、お互いストレスを感じないよう気をつかう。

障害の子供の介助も年々負担に感じていますが、長く続けられるよう助け合っていきたいと思っています。

また昨年秋、家の修繕とマンションの外壁工事をしたために、荷物を整理し不用品を処分しました。ごみを大量に出したことは反省すべき点ですが、うちの中もベランダも軽くすっきりしました。

家の中が片付いているのはなかなかいいものです。この状態を維持するために余計なものを増やさないようにします。

とはいえ、年を取ってきますと頭も体も弱ってきてなかなか思い通りに出来ません。若い人のようにスマホを使いこなしスマートに生きて行きたいのですが限度があります。衝動的に物を買って後々不用品になることもよくありますが、ケチケチするだけでは楽しくないので、無理のない範囲で出来るいいことを続けて行きたいと思っています。そしてなるべく健康に過ごすことが一番だと思っています。

皆様におかれましてもよい一年になりますよう祈っております。

今年もよろしくお願い致します。

『今年度はフロア等運営、地域等連携、安全等整備と

組織化された体制がスタートしました。』

あゆみの家成人部（生活介護事業）

「フロア等運営」

取り組みとしては、コロナ禍で外に出る活動が難しい中、いちご狩りや室内での創作や動きのある活動等利用者様の「楽しみ」を一番に考え様々行ってきました。最近では秋祭り、ハロウィン、ぶどう狩り等も行いました。また、オンラインでボウリング大会をライフサポートつばさ、秋津療育園と交流会も行ってきました。外出の活動を増やしていくことを次年度の目標として取り組みたいと思います。

「安全等整備」

コロナウィルス感染拡大に関し、換気や除菌、職員では手洗い消毒、検温等看護師と連携を取り感染させないという環境設定を行ってきました。送迎車も新車両となり換気機能の付いているバスになりました。避難訓練等も定期的に行い地震、火事等想定し職員、利用者様共に避難訓練を行いました。今後も利用者、ご家族、職員が安心して過ごせる様に安全整備を行っていききたいと思います。

「地域等連携」

福祉の集いで施設のアピールや特別支援学校等の実習生受入れ、小規模ではありましたが、音楽療法士を呼びあゆみの家コンサート等行いました。次年度は合同祭りや、介護等体験の実習生受入れなどコロナ禍の情勢を見ながら地域との繋がりを持ちたいと思います。



(担当：加藤、水野)

『親子で楽しむ療育活動』

ひまわり（児童発達支援事業）

未就学児の療育活動で大切にしている事は沢山ありますが、その一つに親子で楽しく通園をする事があります。

ひまわりでは土曜開所日や季節の行事等、親子で楽しめる内容を一年通して企画しています。

療育活動での子供達の自然な姿を保護者の方に見ていただくことで、子供の新たな一面を発見し、普段の単独療育へのご理解、安心につながっています。

親子療育の日には親子それぞれ楽しんで頂く時間も設ける事もあり、保護者同士のつながりも広がります。

これからも親子で安心し、楽しめる通園作りを目指していきます。

（担当：西島）



『ご要望を少しずつかたちに』

ひまわり スマイル（放課後等デイサービス）

長年、保護者様からご要望がありました「医療的ケア児の自宅送迎」を、今年度、体制の整った夏休み期間と土曜祝日開所日に実施を始めました。

今後とも皆さまのご要望をお聞かせいただき、少しずつでも、お応えできるように、ひまわり職員一同、努力してまいります。



先日の土曜開所の様子です。キャンプ体験ということで、テントに入ってみたり、キャンプ・ファイヤーやかまどを囲んで、ゆっくり過ごしました。また、フォークダンスでは、職員も一緒に踊り、楽しいひと時となりました。帰りの送迎は、医療的ケア児も含めて、全員、送迎車にて帰宅しました。



手作りかまど



キャンプ気分であったり。
会話もはずみます。



キャンプファイヤー
も手作り



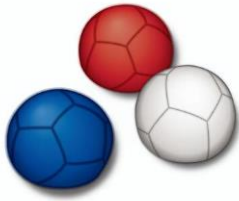
テントの中はなんだか
落ち着くね。



フォークダンスでノリノリです。



（担当：乙幡）



『コロナ禍だからこそ出来た新しい活動』

ライフサポートつばさ（生活介護事業）



今年度もコロナ禍の真ただ中で始まり、年度当初はまだまだ通常の状態での活動を再開できる状況ではありませんでした。多くの利用者様が楽しみにしていた外出や宿泊等の行事は軒並み見送りとなり、日常的にも様々な感染症対策やワクチン接種等の対応に追われる日々を送っていました。

しかし一方で、コロナ禍の今だからこそ出来たことも多くありました。外部との交流のほとんどを制限せざるを得ない中、様々な工夫を凝らして施設生活の充実を図りました。法人内他施設との ZOOM を利用したリモート交流でポッチャやボウリング大会を開催したり、夏には夏祭りの縁日を体感できるような施設内でのお祭りをしたり、秋頃から感染状況が落ち着いてきた段階ではアウトドアのバーベキューを企画・実施しました。

いずれもその時の感染状況を見ながらの判断でしたが、難しい状況下でも創意工夫し、従来の活動範囲に捉われない新しい日中活動の在り方を目指しました。そして、活動においては職員主導で進めるのではなく、利用者様の意見や希望を募り参加してもらうことで、一緒に楽しみながら日中を過ごすことができる場面が増えてきました。利用者様の目線でのアイデアや工夫を取り入れ主体的に生活環境作りに関わっていくことで、みんなで施設を作っているという実感につながっていければと思っています。

また休日開所日を定期的に設け、利用者様の希望に更に沿った活動の実現に努めています。今年度は通常の活動とは違うものをする機会を作り、音楽会やバーベキューなどを開催して利用者様からも大変好評を頂きました。

今後もまだ完全に元通りというわけにはいかない状況が続きますが、現状をただ悲観するのではなく、今できること、今だからこそできることを利用者様と共に模索していきたいと思えます。

（担当：山田）



『秋のイベント』

あゆみの家幼児部（児童発達支援事業）

秋は感染予防対策を行いながら、様々なイベントを行いました。

「9/13～17 運動会ウィーク」

かけっこ、玉入れ、シーツそり、電車ごっこ、パン食い競争を日替わりで2種ずつ行いました。終了後に、がんばった記念のメダルをもらいました。



「10/15 芋掘り」

近隣の方のご協力を得て、芋掘りを行いました。手やシャベルで掘って、獲れたお芋を見せ合ったり、土の感触も楽しみました。



「10/29 ハロウィン」

ひまわりと合同で行いました。皆でかぼちゃに変身して、近所を練り歩きました。その後、つばさの利用者さんからお菓子をもらい、自分で作ったかぼちゃバッグに入れて持ち帰りました。



「11/21(日) 父母療育参加」

平日はなかなか参加出来ないお父様方や、お母様と一緒に過ごしました。運動遊びでは、お子さんと一緒に身体を動かして頂きました。上半期のスライドショー上映で、普段の様子も見て頂きました。



※パン食い競争のパン、ハロウィンのお菓子の寄付を頂きました。ありがとうございました。

（担当：小野）

『ここ最近のホームヘルプひだまり』

ホームヘルプひだまり(重度訪問介護・居宅介護)

「交換研修」

先日あゆみの家成人部職員さんが、ひだまり居宅介護支援の様子を見学したいとのことで、2名の利用者さんのお宅に同行しました。ご自宅での通所前準備や入浴、余暇時間のリラックスした表情など、成人部の活動時間とは違う利用者さんの様子は新鮮に映ったことと思います。

また私自身も成人部職員さんとのやりとりで日頃の支援の振り返りが出来たり、ご家族への質問などから、いろいろ勉強になりとても有意義な体験でした。「交換」して「研修」することでより多くの職員が利用者さんの沢山の情報を得て、それを職員同士共有する、さらには法人内の他の活動を知ること出来て、お互いに顔見知りになれる、とてもメリットの大きい研修だと思いました。

最後に、快くご自宅の様子を見学させて下さったご家族の皆様、ありがとうございました。(担当:星)

「備えあれば・・・」

ホームヘルプひだまりでは、支援中に災害があった場合の事を考え、「災害対応訓練」に取り組んでいます。ホームヘルプひだまりは、ご家庭での支援、外出支援が中心です。ヘルパー一人一人が災害時の対応をシミュレーションしておくことが、とても大切です。

今回は、災害用伝言ダイヤル「171」と災害用伝言板「web171」を使った訓練を行いました。内容は、「震度5の地震が発生→事務所に安否情報を「171」を使って報告をする」こととしました。「171」を初めて使う人が多数で、「少し戸惑った」という声もありましたが、全員が録音と再生を体験することができました。今回は事務所への報告という訓練でしたが、ご家族への報告の訓練も今後行っていきたいと考えております。いざという時に落ち着いて利用者さんの安全確保、安全報告が出来るように、継続して訓練を行ってまいります。(担当:松本)



「交流会」

ホームヘルプひだまりは、「東村山市居宅介護サービス事業者交流会」に参加しています。市内やその近隣市で活動している事業所の代表と、東村山市障害支援課担当者が集まり、「困難事例」や、「制度の変更」について話し合ったり「虐待防止研修」等を行っています。また最近では個別支援計画のフォーマット等をより使いやすく、分かり易いものをと、各事業所の良いところを持ち寄り作成しています。

ホームヘルプひだまりでは、現在ヘルパーを募集しています。勤務時間や曜日などをご相談ください。

ご連絡お待ちしております。

TEL 042-394-5644 担当 梶沼、会田

ひだまりが目指すものは利用者一人一人の毎日が、昨日より今日、今日より明日と、よりよいものとなることでありそれに向けて努力し続けることです。

「事業者交流会」で学んだものを少しでも多く、ホームヘルプひだまりで生かしていきたいです。

(担当:会田)

～編集後記～

今号の編集作業をして、コロナ禍の中で感染対策を意識してその中で利用者の方が安心して、楽しめる活動を行えるように色々なアイデアと工夫を凝らしているが伝わってきました。(担当:廣瀬)

※記事内の写真についてはご本人、ご家族の了承を頂いております。

発行元: 社会福祉法人いずみ
東京都東村山市富士見町3-3-4
TEL; 042-394-1868